

コンコン!

ん?!

ノック?

「失礼します。先生？」

誰? 誰の声? 男子!

誰の声ってわかるじゃん!♡

耳に録音しまくったあの声!♡

タツクン!♡♡♡

なんで? どうして?

「入りますよ。先生? 川井美希って、来てますか？」

ああ! 美希ちゃんの名前言ってる!♡

美希ちゃん、実はこれも夢かなんかと思ってオナニー続けてます。濡れまくったクリちゃんを人差し指と薬指にはさんで、激しく擦ってます。

ああん！♡ いい！♡

タツクン！ タツクン！♡♡♡

イってしまつて目をつむつた美希ちゃん。目を開けてビックリ！

「ナニやってんの、川井さん。」

お、おおっ！

ホンモノの！ タツクンなのか！

「今、まさ、か、川井さん、マスターベーション、してたの？」

美希ちゃん、言い訳できません。だって、シーツはずり落ち、おパンティ丸見え、生足おっぴろげ、でしたから。

見られた！

タツクンに！

でも美希ちゃん、まだ恍惚の中、いい気持ちの余韻に浸っていたので、恥ずかしさを感じないんです。オマタ開いたまんま。

淫らな美希ちゃんの姿に、タツクンの様子は変わっていききました♡

「さっきの時間さあ、クジ引いたでしょ。ハアハア。僕の相手が、川井さんだと聞いてさ、話をしたいと思ってさあ。ハアハアっ！」

美希ちゃん、やっと声が出ました。

「タツクン……。あ、ごめん、拓也くん……。」

「いいよ、タツクンで。僕も、美希ちゃん、って、呼んでいいかな。はああ♡」

「いいよ。全然、いいよ♡♡♡」

タツクンは、ベッドに座り、美希ちゃんのパンティをじっと見えます♡

「美希ちゃん、かわいいね。僕、好きになりそうだよ♡♡♡」

「あのお♡♡わたし、タツクンのことがずうっと好きで、いつも、その・・・お、お、オナニーしてたの。タツクンの顔を想像しながら。恥ずかしいけど、なんか、今、体が動かないの。あんまり見ないでえ♡♡♡」

「ハアハア、でもさ。いいじゃん！ やろうよ♡♡♡」

えっ？

やろうよって、ナニ？

見ると、タツクンはもうズボンのチャックを開き、ナニやら変な生き物を出したんですつつつつつつ♡

ガラガラ！

誰か入ってきた！

ヤバイと思ったタツクン、ベッドの下に。

「川井さん、具合、どう？」

養護教諭の水沢先生、目隠しカーテンの隙間から顔をのぞかせます。

「あのお、先生、まだ、少し・・・。」

水沢先生、淫らな美希ちゃんにシーツを掛けて言います。

「やりすぎはいけないわよ。じゃあ、あと1時間だけね。先生、会議があるから、鍵かけてくね。」

タツクンのことを気づいていない水沢先生。ガチャッと鍵を掛けて出て行きました。

これは！

美希ちゃん、処女喪失のピンチ、

いや、チャンスです！

でも、ちよつと、怖いんですよねえ♡

タツクンがベッド下から這い出してきました。もう、完全に野獣の目をしてます♡

「あのう。タツクン、わたし、まだ……。」

そう言う美希ちゃんに、タツクンの顔が近づいてきます。

あん、もう、だめだあ！ 断りきれないよ。あのタツクンと、せ、せ、せ……。

セ・ツ・ク・スできる♡♡♡♡

タツクンと同じクラスになれて、授業でペアになれて、保健室に二人つきり。しかも先生は1時間お留守。ドアには鍵。

美希ちゃんはなんてツいているのだろう！

ママ、美希ちゃん、大人になる♡

成績は、ちよつと待ってね。

いっぱいセックスして、飽きたらちゃんとやるから。まだ受験じゃないし、いいで
しょ？

だって、タツクンの顔が、もう♡♡♡目の前に！

興奮したタツクンの息が、ああ、ああん！

今、顔にかかった！♡♡♡

「美希ちゃん、先生、1時間帰らないって。いいでしょ？ セックスしようよ。美希ちゃん、僕のこと好きなんだろう？」

「好き・・・♡♡♡ずっと、好きだった。」

「キスするよ。目を閉じて♡♡♡」

あ、あ、ああ、ああ！♡

あ・・・♡

美希、死んじゃう！♡

死ぬ・・・♡

胸が、胸が、裂けちゃう！

ああ、来る・・・来る！

タツクンの唇が！

♡♡ぶ、チュウ・・・♡♡

タツクンは腕を回して、美希ちゃんの肩を抱きました。美希ちゃん、思わず目を開けたの。すると、タツクンのイケてる顔が。まぶたを閉じたタツクンの顔。

かわいっ！♡♡♡♡♡

と、タツクンの手は美希ちゃんのオツパイに。美希ちゃん、思わず、

ハアああっ！♡♡♡

いつもは自分の手で揉んでるの。乳房を揉んだり、乳首いじったり。でも、今、美希ちゃんのおっぱいを自由に触りまくっているのは、あの、タツクン。タツクンの手なの！

美希ちゃん、おまんこからおつゆが出まくって、もう、潮吹きそう！

タツクン、美希の口の中に舌を入れてきたの。美希、口を少し開けて、タツクンの好きなようにさせるの。勇気を出して、美希も舌を動かす。タツクンの舌に絡めるように。

あ、ああん、はああ！♡♡♡

くちゅ、くちゅ、じゅる……。。

学校の保健室に、二人の淫らな音が響いてる。

すっごく！

興奮する！

学校で淫らなことをするのって、

ホント、たまらない！♡♡♡

憧れのタツクンと、保健室のベッドで、イヤラシイことしてる！

すごいよ、美希ちゃん！♡

なんなの？ この漫画的なおかつドラマ的な展開！

「乳首、舐めて、いい？」

ああん、ナニ？

チクビ？ マジ？

タツクンが、美希ちゃんのおっぱいを、乳首を舐めるの？

「いや、あの、でも♡♡♡恥ずかしい・・・。」

恥じらった方が、男子は萌えるのよね。

タツクンの息遣いが荒くなり、マジマジと美希ちゃんのおっぱいを見つめていたかと思うと、やおら、美希ちゃんの右乳首をペロツと舐めたの。

と、今度は左、右と、交互に舐め始めた。

ああん、もう♡♡♡♡♡

左右交互に乳首舐められてる！

ナニ、これ！♡

テクニツクなの？

タツクン、両手でオツパイ鷺掴み、そしてモミモミ♡

時に優しく、時に強く。

乳首の交互舐め。

タツクンの湿った舌が、美希ちゃんの乳首を撫で回し、タツクンの唾液が絡みついてくるの。

たまらない！♡

すごく、いい！♡

あ、はあ、はあ♡♡♡

午後の日差しが窓から差し込んでいて、目隠しの隙間からほんの少し光が漏れている。その光の一部が、美希ちゃんの乳首に当たっているの。タツクンの唾液が糸を引く。

ピチャピチャ、ぴちゃ、ぴちゃ。幸せの・・・イヤラシイ音。

「美希ちゃん、おまんこ、見せてよ。」

タツクンが、おまんこって言った！♡

あの、タツクンが！

あの、卑猥な言葉を。

もう、美希ちゃんの返事を聞くまでもなかった。タツクンは顔を美希ちゃんのオマタに。

「どうしたの？ これ。お漏らし、したの？」

タツクンの顔がオマタを見つめてる。美希ちゃん、思わず顔を手で覆う。

「違うよ、おつゆだよ。美希ちゃん、すぐ潮吹いちゃうの。」

タツクンの手がおパンティに。

「すごいね！ 美希ちゃんて、噂通り、ドスケベなんだね。」

そう、美希ちゃん、ドスケベ……。

って、おい！

噂通りって、ナニよ！

タツクン、おパンティを横にめくって、おまんこを見ている。

「すごい！ 真っ赤だね、おまんこ。」

タツクン、ナニ？

噂通りって。そこ、気になる。

「タツクン、もう、やめよ。これ以上は、いけないよ。」

タツクンの言葉が気になった美希ちゃん。少し起き上がり、タツクンの顔を手で抑えます。両足を広げた美希ちゃんのオマタに、タツクンの頭が沈んでいくんです♡

ああ、ああん！♡

お、おとおっ！♡

はああ、あ、ああああ、あん♡

クンニです♡♡

これがクンニリングス、というもの？

タツクンの舌が、美希ちゃんのおまんこを舐めまわしてる。

匂いが気になる！

臭くない？ タツクン！

ああん、でも、あああん♡

イク、イク、美希ちゃん、いつちゃう！

はん、はん、あん♡♡♡。

ナニこれ！ 気持ちいいよおっ！！！！

♡ピチャピチャ♡♡♡

はあ、ハア♡

あん、ああん♡♡♡

♡ジュルル、じゆる、ジュルル♡

タツクン、美希ちゃんの太腿抱えてる！

美希ちゃんのおまんこに食らいついてる！

美希ちゃんが、タツクンに食べられてるみたい！

すんごく、エロい！

クンニって♡♡♡

「美希ちゃん、おつゆ、すっごい出てる！ 僕、もう、飲んでる。」

ピチャピチャ、ごくごく・・・

タツクン、必死で美希ちゃんのおつゆ、飲んでくれてる。タツクンの舌が、美希ちゃんのクリを撫でるたびに、美希ちゃん、のけぞっちゃう♡

ああん、もう、美希ちゃん、死んでもいいの。おつゆ出しすぎて、脱水症状になって、病院に運ばれてもいい。このまま、タツクンにおまんこ、クリちゃん、舐めてて欲しいの。ああ、でも、

♡ああん、あ、あああ！♡♡♡くちゅ、くちゅちゅ♡

タツクン、激しすぎ♡♡♡

でも、病院はやばいなあ、やっぱり。

薄目に時計が映る。もう時間がちよつとしかない。

クンニで終わってもいいよね？ 美希ちゃん、これで充分だよ。

うん・・・ああん！ あん♡

不思議！ とつくにイっちゃってるはずなのに、我慢できてる。コントロールできてる。タツクンに、もっと、あん！ してほしいからかな？

はあ！♡ はあ！♡ はあ！♡

タツクンが起き上がる。苦しそう。大丈夫？

お口の周りはおつゆだらけ。あら、やだ！

美希ちゃんのマン毛が！ お口に！

ヤラシイ♡すんごく、エッチ♡♡♡

「時間ないね。美希ちゃん、挿れて、いい？」

もちろん、美希ちゃんはいいんだけど、時間がないし、もっと、ゆっくり、いいベッドで、雰囲気の良いところで、タツクンと結ばれたい気持ちも♡

「タツクン、いいんだけど、時間が。今度に、しない？ もっと、いいところで♡」

「わかった！ 約束だよ。僕、もう、美希ちゃんのカラダ、好きになっちゃった♡」

タツクンのズボンから、なんか、生き物がうねってる。

あれが！ オチンチン！

「あの♡美希ちゃん、僕のオチンチン、こんなだから、フェラで、出してくれない？」

フェラ？

ああ！ フェラチオ！

オチンチン、美希ちゃん、啜えるのね♡♡♡

やったあ！♡

美希ちゃん、四つん這いになって、膝立ちしているタツクンに顔を近づけたの。オチンチンじつと見て、観察するの。タツクンのはビンビンになっていて、少し血管が浮き出て、波打ってる。タツクンとは別の生き物みたい♡

「触って、美希ちゃん。」とタツクン。

美希ちゃん、おそろおそろ、先っぽを右手で撫でるの。ツルツルしてる。少し、段差がある。そして、テカテカ、光ってる。すごい！ ホンモノのオチンチンだあ！

「ああっ♡♡美希ちゃん、僕、すぐいくかも。口に啜えてよ♡」

終業のチャイムまであと5分。

美希ちゃん、観察はやめて、ゆっくりと、タツクンの、オチンチン、とにかく、記念すべき瞬間だから、目に焼き付けるつもりで、美希ちゃんの舌の上にオチンチン、のつけたの。

ああ！ おおっ♡♡

タツクン、美希ちゃんの頭を両手でつかむの。

本能って言うのかな、美希ちゃん、初めてじゃないくらい、上手に、タツクンのオチンチン舐めてました。本能じゃないか。考えてみたら、アイスクリームとか、バナナを食べ

てきたから、舐めるって難しくない。タツクンの顔を見上げ、反応見ながら、タツクンのオチンチンを口に含んで、美希ちゃんも吐息もらしちゃうの♡

アン♡ ああ、ああん♡♡♡

おお♡ ああ♡ くちゅ、ジュル♡ スプっ♡

あ、ああああん♡♡♡

「いい、いいよ、美希ちゃん！♡♡♡」

「タツクン、イキそう？」

「うん、もう、出さなきゃ♡」

ジュル♡ ああ、ああん♡♡♡

スプぷ♡ ああ♡ くちゅ、ジュル♡ おおおっ♡

あ、ああああん♡♡♡

「美希ちゃんの、口、やわらかすぎ。こんなの、初めてだって！」

嬉しい！ タツクン、喜んでる！

そうになると、もう、激しく首動かして、オチンチンをお口いっぱい、啜えてあげるの。

「イクっ！♡♡♡イクよ、美希ちゃん♡♡♡」

「いいよ、タツクン、美希の、顔にかけてね♡♡♡」

ドキドキ！

いよいよ、オチンチンから精子が出てくるのね。射精が、この目で見られるのね。

サイコーです！

おおっ♡ ああん♡ くちゅ、ジュルジュルジュル♡

「あっ、イク！♡」

ドっ。ピャああ♡あああっ♡♡

ああん♡♡♡

ネットリがあ♡

美希ちゃんのお顔に♡♡♡♡

お口にも♡♡♡♡

ネツチヨリ♡♡♡♡

タツクンの精液！

たまりません！

くん、くんくん♡ ああん、いい匂い♡♡♡♡

手にとってみる・・・ネツチヨリ・・・。

「タツクン、美希ちゃん、今度はザーメン、飲みたいの♡」

「土曜日にさ、社会の自由研究に行こうよ。その時さ、ラブホ、行こうか♡」

タツクン、優しい。ティッシュで美希ちゃんの顔を拭いてくれる。

やったあ！

いよいよ、タツクンおオチンチンが、美希ちゃんのおまんこに入るのね。そしてそして、二人は恋人同士になるの♡

時間だ！ チャイムが鳴る。

「先行つとくね♡」とタツクン。

美希ちゃんの肩を抱いて、軽いキスをして出て行った。

ああん♡なんて素敵な時間だったんだろう！

ガラガラっ！

来た！ 先生。

「具合、どう？」

「はいっ。だいぶ、よくなりました。ありがとうございますあ。」

「誰か来た？」

「い、いえ。」

「そう？ 何か、生々しい匂い、するわね。換気、換気。」

「あ、それじゃ、失礼しますう！」

ふう……。

ベッドのシーツ、濡れ濡れだったから、少しヤバイかも。

でも、美希ちゃん平気。

だって、すつごく今、幸せだもの♡♡♡♡

今度の土曜日は、タツクンとセックス。美希ちゃん初めてのセックス。

楽しみだなあ♡♡♡

憧れのタツクンと保健室でエッチなこととして、今度はラブホ。

とうとうタツクンと結ばれる！

きゃあっ♡♡♡

家に帰ると、顔がカピカピしてることに気づいた。まだ、タツクンのザーメンが残っていたのね。しばらく洗わないで、オナニーのおかずにしますう♡

※ここまで一部抜粋です。

お気に召しましたらご購入よろしく願いいたします。